

# 平成29年度JA越前たけふ「重点指導対策」

越前しきぶ姫のブランド力を高めるとともに、農業経営の向上を図るため、「重点指導対策」を実践しましょう。

## 1. 収量・品質・食味向上・コスト削減対策

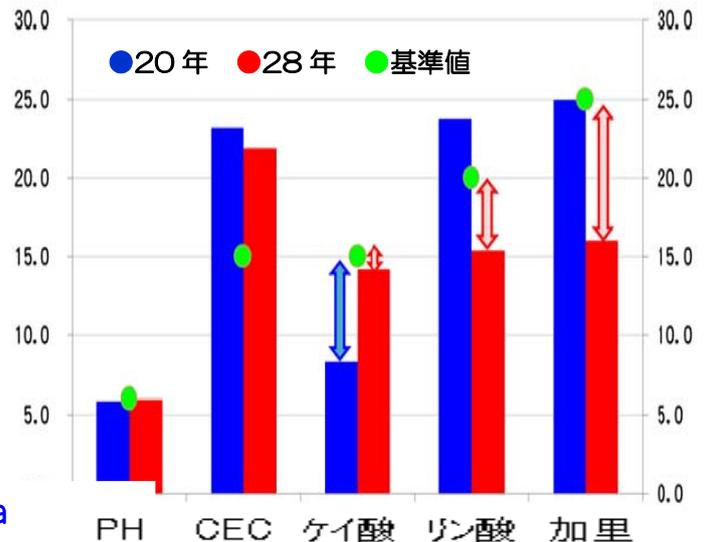
### 1) リン酸・加里・カルシウムの補給を

近年、水田土壌の三要素の欠乏が問題となっているため、リン酸・加里及びカルシウムを中心とした微量元素をバランスよく含んだ有機燃焼灰(ミネラルPK)を圃場に施用し、有機肥料栽培を中心に稲作全般の収量や品質を安定させるとともに、農業生産費の大幅な削減を目指します。

平成28年度の土壌分析結果からも近年、リン酸・加里が基準値を大幅に下回っているため、ミネラルPKで補給しましょう。

春耕起前 ミネラルPK 60 kg/10a

平成28年 水田土壌分析結果



### 2) 醗酵鶏糞で基肥コスト削減を

特別栽培作付農家が施肥している有機質肥料は窒素割合が低い商品が多いだけでなく、肥効が緩慢であるため、醗酵ケイフンを基肥として施肥することにより、生産コストの削減を図りつつ、窒素成分を補うことができます。

#### 問題点

・HG 有機 666 などの有機肥料は比重が軽いいため 10a あたり 60 kg 程度しか田植機で入らない = 基肥窒素として 3.6 kg/10a しか供給できない、たくさん入れるとコストが高くなる

#### 改善点

・基肥散布前に安価な醗酵ケイフン 150 kg/10a を散布する

= 醗酵ケイフンの窒素成分は平均 2.6% 程度のため、窒素量 4.0 kg/10a 程度補給できるが、実際の有効窒素成分は 2.4 kg/10a 程度の効果が得られる



過去に土壌診断や食味調査を行った結果に基づいた食味・土壌MAP(営農指導資料掲載)を活用し、地域別の地力に応じた施肥設計を行い、日本晴や省農薬あきさかりの収量向上と特別栽培コシヒカリの食味や品質の向上を目指しましょう。

## 2. 獣害防止対策

■ 山間地を中心に拡大しているイノシシやサル、シカなどの獣害対策として、捕獲人員の配置や育成とあわせ、市町・地区・集落間のネットワークを構築し、電気柵の正しい張り方指導、捕獲檻の設置や巡回パトロールを行いながら「農作物被害ゼロ作戦」を実施します。本年度も各地区にモデル集落を設定し、集落が関係機関と力を合わせて被害を防止する体制強化を図ります。



出前講座

### 電気柵適正設置マニュアル

#### 1) 防御できない集落の現状

- ① 間違った電気柵の張り方をしている
- ② 資材設置後の管理が不十分
- ③ 被害が徐々に拡大
- ④ 侵入した後に対策を講じていない



#### 2) モデル集落への対策

(うちの集落だけ手厚くというのではなく、一緒に被害を防ぐモデル)

- ① 電気柵設置の初期段階から正しい張り方の指導
  - ・ 集落(実地)説明会、出前講座
  - ・ マニュアル手引きの作成
- ② 定期的パトロールと捕獲檻設置
  - ・ 捕獲檻の優先設置、電気柵効果の動画撮影
  - ・ 対策班・JA・県による見回り
- ③ 集落全戸への情報発信カードの配布
  - ・ 高齢者など在宅者からの情報収集
  - ・ 関係機関相互の情報共有
- ④ 被害があった後の対応指導
  - ・ 集落への報告、二次被害防止策
  - ・ 実証事例として紹介



動画撮影

#### 情報発信カード



#### 3) 集落にお願いしたいこと

- ・ 一部だけを守るのではなく、進入路、山際(全体)を守ることが大切
- ・ 水稻の品種を団地的に作付した方がイノシシの踏み倒し被害は確実に軽減される
- ・ コシヒカリで終了せず、日本晴の収穫まで(2週間程度長く)の管理を継続
- ・ 集落の担当者を決め、常に連絡が取れるように
- ・ 電気柵は既存のもので十分、モデル集落というのは補助金の支援でなく人的な支援
- ・ 電気柵設置による防御と檻による捕獲の合わせ技で被害を防げることを実証

～ 集落が関係機関と力を合わせ、被害を防止 ～